

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	韓国語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0360			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	制御情報工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	崔柄珠著、おはよう韓国語 1、朝日出版社、2014年						
担当教員	安 瀬珠						
到達目標							
1. 韓国語の文字（ハングル）の読み・書きができる。 2. 正しい発音を習得する。 3. 語彙力を身につけ、簡単に自分の意思を伝える。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ハングルの読み・書きができる。			母音と子音を正しく組み合わせることができる。		ハングルが読めない。	
評価項目2	発音の違いが区別できる。			語彙を覚えている。		単語を覚えていない。	
評価項目3	日常の簡単な会話ができる。			語彙を使って会話ができる。		用言の丁寧形の作り方を理解していない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	隣国である韓国に対する理解と関心を高めるために、韓国語とその背景にある文化・歴史にも触れ、韓国人とのコミュニケーションを楽しむ心を持つことを目指す。						
授業の進め方・方法	授業は教科書と練習用プリントを中心に行われる。会話の練習をするためにペアを組んで発音してみたりすることができるので、積極的な授業参加が求められる。またこの授業は韓国語Ⅱに継続する。						
注意点	・ 定期試験 7 0 %、平常点（小テスト、課題、授業態度など） 3 0 %。 ・ 6 0 点以上を合格とする。 ・ 再試を行う。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ハングルの仕組みと生成背景について。		・ ハングル生成の歴史的背景を理解する。 ・ ハングルの仕組みを理解する。		
		2週	基本母音を覚え、母音を使った発音の練習をする。		・ 母音の並び方の基本を理解する。 ・ 単語を発音しながら書くことができる。		
		3週	基本子音14個と濃音を覚え、子音と濃音を使った発音の練習をする。		・ 平音、激音、濃音の区別ができる。 ・ 音を聞いて区別して書くことができる。		
		4週	合成母音 1 1 個を覚え、合成母音を使った発音の練習をする。		・ 基本母音の発音との違いがわかる。 ・ 単語を発音しながら書くことができる。		
		5週	パッチムについて		・ 響くパッチムと消えるパッチムの区別ができる。 ・ 二種類のパッチムを区別して書くことができる。		
		6週	挨拶言葉と韓国人のしぐさから見る韓国人・韓国文化		・ 挨拶表現から見えてくる日韓の文化の違いを理解する。 ・ しぐさの違いから日韓文化を理解する。		
		7週	文字と発音の総括復習		・ 母音と子音の読み書きができる。 ・ 聞き取り練習を通して発音の区別ができる。		
		8週	発音の規則について I		・ 連音化、濃音化、激音化を理解する。 ・ 発音ルールに沿って単語が読める。		
	4thQ	9週	発音の規則について II		・ 鼻音化、流音化、その他のルールを理解する。 ・ 発音ルールに沿って単語が読める。		
		10週	韓国映画鑑賞。				
		11週	自己紹介。 ～は～ですの文型を練習。		・ 初対面の人に挨拶と自己紹介ができる。		
		12週	否定文の練習		・ 名詞＋が ・ 名詞＋ではない ・ 名詞＋も の文章を作ることができる。		
		13週	用言の丁寧形 I		・ 動詞、形容詞＋です、ますの文章が作れる。 ・ 助詞の使いを理解する・		
		14週	用言の丁寧形 II		・ 存在詞、指定詞＋です、ますの文章が作れる。 ・ 趣味と関わる単語を習得する。		
		15週	好き・嫌いを尋ねる		・ 趣味・好みを尋ね合うことができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	10	0	10	100
基礎的能力	70	10	0	10	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0